２０２3年　9　月　27　日　　担当　ジョン

# 原油が堅調　ゴムは続落

27日午前の国内商品先物市場で、原油が堅調に推移している。11時30分時点で取引量が多い2024年2月物は前日の清算値に比べ1310円高い1キロリットル8万700円と、寄り付き時点（8万290円）から上げ幅を拡大している。主要産油国による減産や欧米が冬場の需要期を迎えることで、原油需給の逼迫した状態が続くとの見方が根強い。27日の東京外国為替市場で円相場が1ドル=149円前後と円安・ドル高基調で推移している点も国内原油先物相場を押し上げている。

ゴム（RSS）は続落した。11時30分時点で取引量が多い24年2月物は同1.4円安い1キログラム231.8円だった。中国・上海のゴム先物相場が軟調に推移している点などを受けて、売りが優勢となっている。

**引用記事**　日経新聞

# ウメモト インフォメーション

２０２3年　9　月　27　日　　担当　ジョン

## 円、149円前後で小動き

27日午後の東京外国為替市場で円相場は1ドル=149円を挟んで小幅な動きとなっている。14時時点は1ドル=149円00～02銭と前日17時時点と比べて14銭の円安・ドル高だった。日本政府・日銀による円買いの為替介入への警戒感が強く、心理的な節目である150円が近づき持ち高を一方向に傾ける動きは限られている。

**引用記事**　　**日経新聞**

# ウメモト インフォメーション

２０２3年　9　月　27　日　　担当　ジョン

## 建設･物流のM&A活発　1～8月161件、「24年問題」も影響

建設業や物流業でM&A（合併・買収）が活発になっている。2023年1～8月のM&A件数は161件と07年以降で3番目の多さとなった。23年通年でも過去最高だった21年並みの高水準となる公算が大きい。人手不足を背景に事業承継を目的としたM&Aが増えており、24年から時間外労働の上限規制が課される「2024年問題」も影響している。

M&A助言のレコフが非上場会社も含めて調査した。建設業と物流業のM&A件数の合計は17年以降に増加ペースが速まり、21年に276件と過去最高になった。2業種のM&Aが日本企業全体に占める割合は16年の4.7%から21年に6.4%へと上昇した。

1～8月のM&Aは建設業が107件と、同期間として5年連続で100件を超えた。物流も54件と3年連続で50件超となった。

背景にあるのは人手不足だ。M&Aの形態・目的別でみると、事業承継を目的とするのが建設業・物流業合計で22年は過去最高だった。24年からは働き方改革関連法に基づく時間外労働の上限規制が課され、人手不足が一段と強まると懸念されている。

長野県で土木事業を手がけるトライネットホールディングス（長野県飯田市）は3月、中堅ゼネコンのナカノフドー建設の傘下に入った。食品輸送を手がける山里物流サービス（大阪府八尾市）は、4月に物流センター事業などを手がけるハマキョウレックスの子会社となった。

倒産や廃業も相次いでいる。東京商工リサーチによれば、1～8月の倒産件数は建設業で前年同期比43%増の1090件、物流業に相当する「道路貨物運送業」で28%増の202件といずれも22年通年を超える勢いだ。

M&A助言大手は体制を整備している。M&Aキャピタルパートナーズは8月、建設業と物流業のM&Aを支援する専門家チームを相次いで立ち上げた。同社の鈴木康士企業情報部長は「地方の中小だけでなく、都市部の中堅でも事業の継続・拡大のために大手と提携する事例が増えている」と指摘する。

# ウメモト インフォメーション

２０２3年　9　月　27　日　　担当　ジョン

## 東北電力、新潟火力発電所で水素混焼　国内初

東北電力はガスタービン発電で水素を燃料の一部に使う実証試験を10月から新潟火力発電所（新潟市）で始めると発表した。大手電力の火力発電所としては国内初。水素やアンモニアの混焼を計画しており、技術的な準備が整った水素混焼から着手する。実施時期は2024年度中としていた当初計画から前倒しした。

新潟火力発電所の5号系列で、主燃料である液化天然ガス（LNG）に体積比で1%の水素を混ぜ合わる。ガスタービン発電と蒸気タービン発電を組み合わせたガスタービン・コンバインドサイクル（GTCC）の発電設備としては全国で初めての取り組みだ。

混焼試験を前に燃料を供給する設備にボンベや配管といった水素供給用の設備を据え付ける。試験は25年3月までを予定している。今回の実証試験で得られたデータやノウハウを活用し、26年度にも水素やアンモニアを使った発電の実用化につなげたい考えだ。同社は30年以降に200万キロワットの再エネ電源の開発を目指している。

水素は燃やしても二酸化炭素（CO2）を出さないことから、脱炭素化に向けた燃料として有望視されている。今回は既存のガス発電の設備を使うが、将来は混焼の割合を引き上げたり水素やアンモニアの専焼設備の導入をしたりすることで排出量削減を進める。

**引用記事**　　日経新聞

# ウメモト インフォメーション

２０２３年　９　月　27　日　　担当　ジョン

## 7～9月期 C重油値上げ決定

### HS 8万2110円 LS 9万4710円

ENEOS

ENEOSは7～9月期のC重油価格を決定した。大手需要家との交渉によりHS（高硫黄）C重油（硫黄分3・0%、サイト60日、平水湾内運賃ベース）は前期（4～6月）比総5560円高の8万2110円、ENEOS所定の算定方式で決めるLS（低硫黄）C重油（硫黄分0・3%、サイト30日、平水湾内運賃ベース）は5240円高の9万4710円となった。

為替レートが1ドル142円61銭に7円63銭円安方向に振れ、両油種とも2期連騰につながった。HSC重油は2022年10～12月期（9万1080円）以来3期ぶりの高値。為替レート3960円、ポンドバンカー980円、生産品CIF49

引用記事　　日経新聞　　燃料油脂新聞

# ウメモト インフォメーション

２０２3年　9　月　27　日　　担当　ジョン

## 週間原油コストの推移

| | 期間 | 原油相場 | | 為替（▲は円高） | | 円建て原油コスト | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ドル／バーレル | 前週比 | ドル／円 | 前週比 | 円／ℓ | 前週比 |
| 火曜日～月曜日 | 8/15～8/21 | 85.82 | ▲1.70 | 146.77 | 1.87 | 79.22 | ▲0.54 |
| | 8/22～8/28 | 85.55 | ▲0.27 | 146.92 | 0.15 | 79.05 | ▲0.17 |
| | 8/29～9/4 | 87.74 | 2.19 | 147.16 | 0.24 | 81.21 | 2.16 |
| | 9/5～9/11 | 90.87 | 3.13 | 148.27 | 1.11 | 84.74 | 3.53 |
| | 9/12～9/18 | 93.92 | 3.05 | 148.21 | ▲0.06 | 87.55 | 2.81 |
| | 9/19～9/25 | 94.26 | 0.34 | 149.03 | 0.82 | 88.35 | 0.80 |
| 水曜日～火曜日 | 8/16～8/22 | 85.53 | ▲2.19 | 146.90 | 1.37 | 79.02 | ▲1.27 |
| | 8/23～8/29 | 85.58 | 0.05 | 146.98 | 0.08 | 79.11 | 0.09 |
| | 8/30～9/5 | 88.31 | 2.73 | 147.16 | 0.18 | 81.73 | 2.62 |
| | 9/6～9/12 | 91.25 | 2.94 | 148.30 | 1.14 | 85.11 | 3.38 |
| | 9/13～9/19 | 94.52 | 3.27 | 148.46 | 0.16 | 88.25 | 3.14 |
| | 9/20～9/26 | 93.98 | ▲0.54 | 149.28 | 0.82 | 88.23 | ▲0.02 |

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート

引用記事　　日経新聞　　燃料油脂新聞